

稲作管理特報

令和3年3月19日
入善産米品質向上対策本部
黒東地域農業技術者協議会

「いざ土づくり！ 美味しいみな穂米を届けよう！」

高品質で美味しい米を生産するため、不足養分の補給や有機物の施用など土づくりを進めましょう。

◆春の土づくり運動 3月～5月まで◆

(1) 深耕により作物の根域を拡大させ、肥料の吸収効率を高めましょう。

- ・作土層が浅いと根が十分伸長せず、気温や水分変化を受けやすくなります。
- ・耕起時はトラクタの速度を落とすとともに、プラウやスタブルカルチ等を活用し、作土深20cmを目指しましょう。

(2) 堆肥や発酵鶏ふん等の有機物の施用により、土壌の肥沃度、排水性・保水性を向上させましょう。

- ・有機物を積極的に施用し、土壌の腐植や加里等の不足養分を補いましょう。
- ・腐植含量が少ない沖積・砂質土壌や、大豆等の作付回数の多いほ場では積極的に施用しましょう。

○標準施用量

牛ふん堆肥(春施用 1t/10a)または発酵鶏ふん(春施用 75kg/10a)

(3) 土壌改良資材を確実に施用しましょう。

～秋に施用できなかったほ場は、春に必ず施用しましょう～

- ・土壌中のケイ酸含量は施用を中断すると急速に低下するため、米の品質向上のために、継続して施用しましょう。

○標準施用量 (①、②より選択)

①	「シリカパンチ F」 120kg/10a 施用	
②	「珪酸石灰」 160kg/10a	+ 「苦土重焼燐」 20kg/10a ※山手(洪積)は 40kg/10a 施用
	「アサヒニューテツ」 160kg/10a	+ 「苦土重焼燐」 20kg/10a ※山手(洪積)は 40kg/10a 施用

積極的な土づくりと田植時期にあわせた育苗計画で、「みな穂の米づくり」に取り組もう！

育苗計画 ～5月10日以降の田植えにあわせて育苗計画を立てましょう！～

【育苗～田植えの作業時期の目安】

浸種開始日	催芽日	播種日	ハウス搬出日	田植日	育苗日数
4月8日	4月17日	4月19日	4月22日	5月10日	21日
4月16日	4月23日	4月25日	4月28日	5月15日	20日
4月24日	4月30日	5月2日	5月5日	5月20日	18日

浸

種

- ※浸種袋の色分けやラベル付けにより、品種の区分管理を徹底しましょう。
- ※薬剤の効果を高めるため、浸種は次のことに注意しましょう。
- ・浸種時の水温は10～15℃を保ちましょう。特に、**浸種初日は12℃程度**を確保し、種粃を低水温に慣らしましょう。
- ⇒浸種桶は日光が直接当たらない場所(日かげ等)に置き、温度計により水温を定期的に確認しましょう。
- ・浸種開始後は2～3日程度水を交換しないでください。その後、水の交換を2日に1回程度行い、種粃に酸素を供給しましょう(流水中での浸種や頻繁な水の交換は、薬剤の効果を低下させるので注意しましょう)。
- ・浸種期間は、7～10日程度が目安です。

催芽

- ・育苗器を使用する場合は、**30℃を厳守**してください。
- ・芽の長さは、ハト胸～2mm程度が目安です(伸び過ぎないように注意！)。

播種

- ・1箱当たりの播種量は、**乾粃で120g(催芽粃で150g)程度**です。

出芽

- ・育苗器の温度は、**30℃を厳守**してください。
- 30℃を超えると、カビや苗立枯病が発生する原因となります！
- ・育苗器のサーモの作動状況を事前に確認しておきましょう。

搬出

- ・ハウス搬出直後は、土が落ちつくまで水をしっかりかけましょう。
- ・被覆資材は、緑化後に速やかに外しましょう(搬出2日後が目安です)。

ハウスの温度管理

- 緑化期(搬出後2～3日)

ハウス内の温度は25℃を超えないよう、搬出直後から換気しましょう。
ただし、夜温が10℃以下になると予想される場合は、ハウスを早めに閉めましょう。